



企画振興部交通政策課
松本空港利活用・国際化推進室
(室長) 岩下 秀樹 (担当) 黒岩 丈幸
山口裕太郎
電話 026-235-7019 (直通)
026-232-0111 (代表) 内線 3739
F A X 026-235-7396
E-mail airport@pref.nagano.lg.jp

信州まつもと空港に新しい進入方式が導入されます

信州まつもと空港の機能強化を図るため、国と航空会社で導入の検討を進めてきた新しい進入方式(RNP-AR)の運用が始まります。

1 運用開始日

令和2年7月20日(月曜日)

2 RNP-AR進入方式とは

世界的に導入が進められているGPSを活用した高規格な進入方式のことです。

※RNP-AR (Required Navigation Performance-Authorization Required)

(1) 導入の効果

- 航空機は、GPSを用いた正確な位置情報により、地上施設の配置に左右されない経路を飛行することが可能になるとともに、滑走路中心線延長上に誘導されることから、飛行時間の短縮とパイロットの負担軽減が図られます。
- 現在、信州まつもと空港で運用されている進入方式に比べて、着陸を判断する最低高度がより低くなるため、就航率の向上が期待できます。

(2) 他空港の状況

平成24年1月から導入が開始され、令和2年7月16日現在、国内33空港で導入されています。

信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針【概要版抜粋】

信州まつもと空港の位置づけ

「長野県の空の玄関口であり交流ネットワークの核」

■「本州中央部広域交流圏」構想（長野県新総合交通ビジョン）

- ・高速交通網を最大限に活かし、本州中央部に位置する本県の優位性を発揮することで、本県を中心（起点・終点）として、県境を越えた大きな流動を創出
- ・信州まつもと空港を核とした交流ネットワークが拡充され、国内遠隔地や東アジア等との移動が活発に

■「信州創生戦略」

- ・人口定着や交流人口の拡大のため、県内外を結ぶ幹線道路や生活道路の整備、鉄道網の確保、信州まつもと空港の活性化など、交通ネットワークを形成

■「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」

- ・顧客の受入環境整備として、信州まつもと空港に関西空港等からの航空便を呼び込む

取り巻く状況の変化

■外国人観光客の増加

- ・訪日外国人観光客の新たな目標（国）：H32年 4,000万人 [H27(2,000万人)の2倍]
- ・外国人延べ宿泊者数の目標（長野県）：H31年 200万人 [H26(66万人)の3倍]
- ・H27年は45年ぶりに訪日外国人数が日本人出国者数を上回る

⇒「空の玄関口」の重要性が増す

■全国の航空輸送の現状、機材開発の状況

- ・小型多頻度運航の増加
- ・新たな高性能リージョナルジェットの開発が進行(MR J・エンブラエルE2等)

⇒ 信州まつもと空港を活用できるチャンスが増大

信州まつもと空港の特性

“山岳高原空港”

日本一美しい空港・日本一空に近い空港

- 高い山岳に囲まれた標高<657.5m>の高い場所に立地

≪美しい景観≫

- ・雄大な北アルプス連峰の3,000m級の山々と一体となった景観
- ・周辺に上高地をはじめとした山岳高原が点在
- ・周囲に整備された公園は、四季折々の姿や賑わいを提供

- 世界水準の山岳高原観光地づくりに向けた貴重な観光資源

≪着陸進入方式≫

- ・空港周辺の山岳が障害となりILS（計器着陸装置）の設置は困難
- ・国内空港ではGPSを活用した「RNP-AR進入方式※」の設定が進展
- ※飛行経路の短縮や就航率の向上に効果が期待

- ILSに代わり、航空会社と連携して「RNP-AR進入方式」の早期設定・運用

≪滑走路≫

- ・滑走路の実効長は1,800m程度
- ・現在就航している機材はリージョナルジェット
- ・国内空港に就航している主な航空機材（小型ジェット機）が就航するには2,700m程度の滑走路長が必要であり、速やかな対応は困難

- 当面は現有滑走路の活用により空港の活性化

リージョナルジェットの活用

- リージョナルジェットによる運航を中心とした国内・国際路線の拡充・定期便化を目指す
- 重量（搭乗）制限が必要となる小型ジェット機はチャーター便として就航

◇リージョナルジェットの航続可能距離から、海外の就航先は東アジア地域

◇小型ジェット機による高い搭乗率での運航をビジネスモデルとするLCCの就航については、更なる検討・工夫が必要

◇貨物輸送は、リージョナルジェットの限られた空きスペースを活用した少量貨物

*小型ジェット機：座席数140席から160席クラスのジェット機

*リージョナルジェット：座席数50席から100席クラスのジェット機

今後10年間の取組の「4本柱」

- ① 国内路線の拡充
- ② 空港の国際化
- ③ 観光・賑わいの拠点としての活用
- ④ 空港施設の機能等の強化